

手を差し伸べる心意気

正木照夫の 鉄人の目



田知本選手は見事完勝してくれました。前回の2012年ロンドン五輪では試合中のケガもあり悔しい結果でしたが、その経験が生きています。2回戦で第1シードのポリング選手(オランダ)に勝ったことが本人

の自信になり、勢いになったと思います。開始すぐ有効をとられました。とりかえし、延長で再び有効を奪って勝ちました。スタミナが群を抜いています。いかに稽古を重ねてきたかわかりません。

決勝では連続技が決まり、投げてから押さえ込む技も見事でした。さらに勝ったあと、相手の選手に手を差し伸べていました。これはなかなかできることではありません。強さだけでなく、柔道家の心意気を見せてくれたと思います。

ペイカー選手はよく頑張って優勝したのですが、いくつか危ない場面がありました。準決勝で

ひたすら前へ出て、技を繰り出した。劣勢にあっても迷わず一歩を踏み出した。優勝候補に華がなかった女子70kg級の田知本が頂点へ。「走馬灯のように込み上げてきた。それは山よりの谷ばかりで苦しかった4年分の思いだった。得意の大外刈りを磨き、相手の研究と対策も怠らず、やり残したことはなかった。ヤマ場だったポリングとの2回戦は大外刈りで追いつき、逆転。アルベアルとの決勝は指導でリードされたが、こん身の谷落としから抑え込んで一気に仕留めた。

4年前のロンドン五輪は7位。そこから、もがき始めた。変わりたくても変われず、引退を考えたこともあった。ドーピング規定に抵触する市販薬を服用して

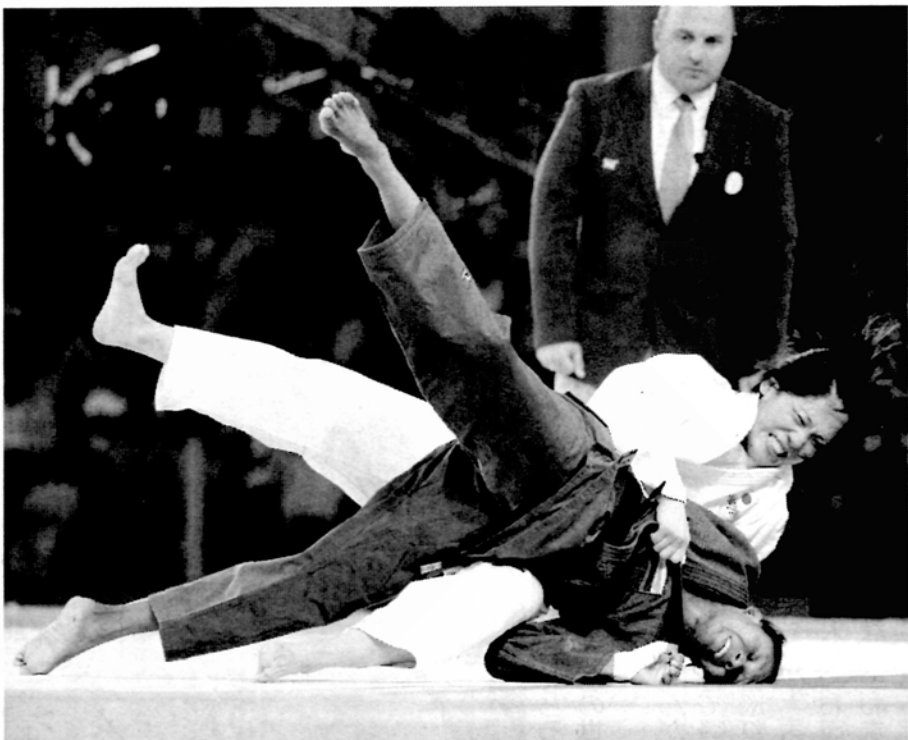
体幹鍛え威力増す技

昨年2月には国際大会を欠場し警告処分を受けた。「心が折れそうになった」と振り返る。それでも懸命に自分を鼓舞し、はい上がった。

嫌いだっただ筋力トレーニングに取り組み、練習拠点の東海大では73kg級前後を中心に、時には90kg級の男子選手とも組み合った。南條監督がたたえる「外国選手に引けを取らない体幹の強さ」はそこから生まれ、技の威力は増した。

五輪代表の座をつかんでからは技も研究も対策も、敗北につながるような隙間を徹底して埋めてきた。どん底からつかんだ金メダル。苦節の日々に「酸いも甘いも知って、執念深くなった」という心の変化が、最後のピースだった。(時事)

田知本 前回7位から奮起



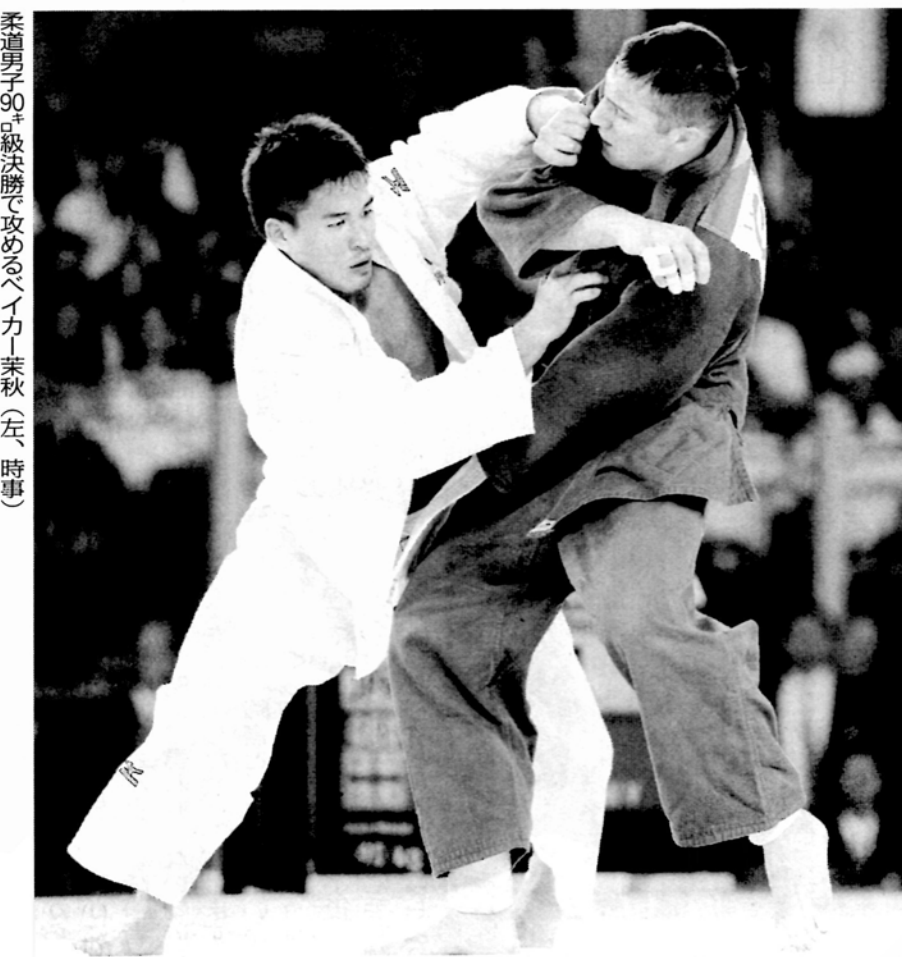
柔道女子70kg級決勝でアルベアル(下)を攻める田知本遥(時事)

難民の柔道家 大歓声浴びる

▽柔道男子90kg級で難民選手団のポボル・ミセンガが初戦突破し、大歓声を浴びた。続く3回戦では世界王者の郭同韓(韓国)に一本負けを喫したが、さすがに表情で「五輪でチャンピオンとたたかえて光栄」と初舞台をかみしめた。

コンゴ(旧ザイール)出身。リオデジャネイロで2013年に開催された世界選手権の後にブラジルに亡命し、リオ市内の道場で稽古に励んできた。「柔道はいつも私を支えてくれた。いつか五輪でメダルを取りたい」と夢を口にしていた。(時事)

90kg級史上初 ベイカー 女子初の金 田知本



柔道男子90kg級決勝で攻めるベイカー(左、時事)

五輪は夢の舞台

一問一答

「緊張はあったか。決勝の前は緊張で3回も吐いた。そうした体が軽くなった。」

「この階級で日本選手優勝は初めて。歴史に名を刻んだ。73kg級の太田に続く金。」

「試合を会場で見ている、本当に格好良く、自分もこうなりたかった。」

「東京五輪についてまだ頭がない。目指すなら、連覇したい。」(時事)

「調子はどうだったか。昨夜はしっかりと寝られて、朝からすごく調子が良かった。いけるんじゃないかと思う。」

「決勝は指導を受けながら逃げ切った。正直、井上監督の(シドニー)五輪決勝での内股のように格好良く勝って終わりが良かった。でも、金と銀では違うと分かっている。それがポイントを取ってからの試合運びに出た。」

「五輪は特別だったか。小さい頃から夢に描いていた舞台。今までたたかってきた国際大会とは全然違ったが、いつも通りだったか。」

「緊張はあったか。決勝の前は緊張で3回も吐いた。そうした体が軽くなった。」

「この階級で日本選手優勝は初めて。歴史に名を刻んだ。73kg級の太田に続く金。」

「試合を会場で見ている、本当に格好良く、自分もこうなりたかった。」

「東京五輪についてまだ頭がない。目指すなら、連覇したい。」(時事)

ベイカー 初出場で栄冠

「緊張はあったか。決勝の前は緊張で3回も吐いた。そうした体が軽くなった。」

「この階級で日本選手優勝は初めて。歴史に名を刻んだ。73kg級の太田に続く金。」

「試合を会場で見ている、本当に格好良く、自分もこうなりたかった。」

「東京五輪についてまだ頭がない。目指すなら、連覇したい。」(時事)



柔道は10日、男女2階級が行われ、男子90kg級のベイカー(まじゅ)と東海大、女子70kg級の田知本遥(ALSO)がともに金メダルを獲得しました。五輪で日本勢が男子90kg級を制したのは、旧86kg級を含め史上初。日本女子の金は今大会の柔道で初めて。

五輪初出場のベイカーは準決勝で程訓釗(中国)にけさ固めで一本勝ちし、決勝はバルラム・リパルテリアニ(ジョージア)から有効を奪って逃げ切りました。

田知本は準決勝でラウラ・ファルガスコッホラ(ドイツ)から技ありを奪って優勢勝ち。決勝はジュリア・アルベアル(コロンビア)に合わせ技で一本勝ちしました。(時事)

井上康生男子監督、ベイカー(まじゅ)は、恐るべし。彼は大舞台になればなるほど燃えるタイプだが、90kg級は非常に強豪が多く、敵しいたかいいなると思っていた。最後まで諦めず泥臭くたたかっていた姿は、初出場で見事に見事だった。

南條充寿女子監督(日本女子で初の金メダル)が予想とは違ってくるからだったので、正直驚いている。田知本が吹だしたつまずきを全て吹き飛ばしてくれた。全体的に集中が切れなかったことが一番の勝因。(時事)